動詞と形容詞とが構成する文法構造：中国語3種類と日本語1種類の対照研究

メタデータ	言語: jpn
	出版者:
	公開日: 2017-10-03
	キーワード (Ja):
	キーワード (En):
	作成者: 大瀧, 幸子, Otaki, Sachiko
	メールアドレス:
	所属:
URL	http://hdl.handle.net/2297/794

動詞と形容詞とが構成する文法構造

―― 中国語３種類と日本語１種類の対照研究 ――

大 滝　幸 子

1　はじめに
2　日中両国語に於ける形容詞分類
2, 1　中国語に於ける形容詞分類
2, 2　日本語に於ける形容詞分類
3　中国語の統合型3種類と形容詞3種類の組み合わせを基準とした日中両国語の比較対照
3, 1　AV型・V得A型・A地V型での用法の差異に関連する中国語動詞の15分類
3, 2　日本語内の翻訳語彙を通して現れるVA型・V得A型・A地V型の統合意義特徴の差異
§3, 2－1:「社会的関心度の高さ」が統合を促進したVA型
§3, 2－2:「動作行為にふさわしい目的意識」を詳述するA地V型
§3, 2—3:「変化の一回過程内の格(的要素)」を判断評価するVA型
§3, 2－4:「同一状況内での一連の出来事に関する諸要因」を判断描写するV得A型:「同一状況内での出来事全体」を「動作主よりの視点にたって」判断描写するA地V型
§3, 2－5:「とりかかりの時」を計測・計量するVA型・V得A型・A(地)V型
4　おわりに

1　はじめに

筆者は中国語形容詞と動詞が構成する以下の統合型3種類、

Ⅰ　述語結果補語統合型(VA型と略称する)

Ⅱ　述語様態補語統合型(V得A型と略称する)

Ⅲ　状語中心語統合型のうち形容詞を状語として用いる統合型
(A地V型と略称する)

上記の統合型についてさまざまな角度から比較検討し、その統合型そのものが表す文法的意義特徴(以下、統合意義特徴と呼ぶ)について考察してきた。本稿はその3種類の統合意義特徴に関する考察結果に基づいて、日本語に於ける唯一の形容詞と動詞が構成する統合型である、連用修飾統合型(以下、A＋V型と略称する)との比較対照を行い、次の文法課題に対して解答を出そうとするものである。

【課題Ⅰ】中国語のVA型・V得A型・A地V型は、それぞれどの形容詞とどの動詞を組み合わせた場合に、日本語のA＋V型を用いて翻訳できるか。また、どのような文脈(「単一陳述の文」すなわち単文或いは複文が表わす叙述内容・さらに「単一主題の連文[1]」のテキスト内容)からの補充が必要か。

【課題Ⅱ】日本語のA＋V型を用いて翻訳できない場合には、どのような統合型を用いれば、ほぼ同等の意味を表わすことができるか。

2　日中両国語に於ける形容詞分類

形容詞の意義素のうち、その被指示物が社会的外界(「個人的精神界」に対する概念)に存在する語義を表示するものは、その内部構造をいくつかの段階や構成要素に分けて、論理的或いは属性的認識(「事実的或いは事象的認識」に対する概念)の対象とすることができる。この段階或いは要素のことを、筆者は「意味的事項」と名づけ、意義素記述のための項目として扱ってきた[2]。特に、異なる意義素体系をもつ言語どおしの意味を比較対照する方法としては、(1)個々の単語の意味的事項ごとにどのような「認識上の規定(以下、語義的意義特徴と呼ぶ)」が存在しているか、(2)複数の単語の意味的事項に共通するところの、「特定の統合型内での他の複数の単語との組み合わせ」を制限するような規定(以下、文法的的意義特徴と呼ぶ)」として何が存在しているか、に

ついて検討することがふさわしいと考えられる。そして、これら意義素内で規定された語義的或いは文法的意義特徴が、具体的発話のなかで社会的外界のどの現象を中心として指示し[3]、どこまでの現象を指示可能な範囲としているか（筆者は指示されたこの外界の意義領域を「現象素枠」と名づけている）について分析記述することが、「複数の自然言語の意義素体系がどう異なっているかを、具体的言語事実の差異として示す」ことに他ならないと言えよう。

2，1　中国語に於ける形容詞分類

中国語の形容詞の分類について、筆者は次の4グループを認めてきた。[4]
①判断形容詞（CP　と略称する）②褒貶形容詞（CB　と略称する）③描写形容詞（CM と略称する）④感覚感情形容詞（CG　と略称する）。以下、【表1】に、各グループの意味的事項および文法的語義的意義特徴を示す。

【表1】

	意味的事項1	意味的事項2	意味的事項3	意味的事項4
CP	判断対象（格）	判断スケール	判断結果	ベクトル方向
CB	評価対象（格）	評価スケール	評価結果	褒貶価値
CM	描写対象（格）	帰属スケール	帰属判定	表現付加価値
CG	原因（格）：経験者（格）	平常感覚感情	感覚感情程度	快不快方向

注：（格）は、その意味的事項が形容詞以外のほかの言語形式によって、表示されることを表わす。形容詞の格は、原則として主語の位置で表示され、名詞によって補填される。以下、同じ。

①判断形容詞CPには、計量形容詞（属性形容詞という名称より、実態を反映した名称である。中国語名“**量度形容词**”）と性質形容詞という2つの下位区分が認められている。[5]
「計量形容詞」は、「統合型【形容詞＋（了）＋定量数量詞】内で使われる形容詞」である。語義的にも文法的にも、数量・時量形容群・形状形容群・スペース形容群・などの区別がたてられる。「性質形容詞」は、判断形容詞の中で、計量形容詞以外のもののなかから、数量表現のうち「不定数量を表わす“**一点儿**”」を補語として後置できるものをとりあげる。

ただし、単独では“**一点儿**”を後置できず(“**再**·**稍微**”など副詞を呼応させることが必要条件になるものを含む))、また自動詞としての述語機能も十分ではない形容詞のうち、グループをなすとみられるものに2種類がある。(1)極限の程度を表わし、否定副詞**不**で否定できる形容詞 **足**·**全**·**久**·**巧**など。(「極性形容詞」と呼ぶ)。多くは副詞としても機能する。(2)区別詞(連体修飾語としてのみ使われる:否定副詞**不**で否定できない)。そのうち、(1)は、VA型に用いられるものとして、本稿でも考察資料に含めることにする。

CP1:計量形容詞＝**高**·**低**·**矮**, **长**·**短**, **粗**·**细**, **厚**·**薄**, **大**·**小**, **宽**·**窄**, **深**·**浅**, **满**, **远**·**近**, **快**·**慢**, **早**·**晚**

CP2:性質形容詞＝**巧**・**迟**·**齐**·**全**·**齐全**·**完全**·**挤**·**足**·**够**·**惨**·**透**·**厉害**·**坏**／**扁**・**歪**·**直**·**弯**・**斜**·**平**·**圆**·**匀称**·**乱**·**瘪**·**草**·**亮**·**尖**·**滑**・**秃**·**肿**·**破**・**皱**·**端正**·**严实**／**空**·**满**·**密**·**光**·**遍**·**宽敞**·**紧凑**·**稳**·**安稳**·**平稳**·**匀均**·**平均**／**旧**·**久**·**白**·**黑**·**熟**·**干**·**红**·**硬**・**紧**·**严**·**稠**·**稀**·**老**·**嫩**·**烂**·**咸**・**瘦**·**肥**·**硬**·**软**·**结实**／**差**·**对**·**错**·**糟**·**公平**·**合适**・**便宜**／**臭**·**凉**·**馊**·**残**·**湿**·**脏**·**干净**·**整齐**·**漂亮**·**模糊**·**糊**／**穷**·**野**·**活**·**明**·**重**·**清楚**·**简单**·**明白**·**通顺**·**详细**·**具体**·**仔细**·**周到**

また、②評価形容詞は**陆俭明** 1990での解釈を主要な根拠としてたてた分類である。[6]「褒貶の価値評価が形容詞の語義に含まれるか否かによって、VA型の統合意義が予期値から隔たっている過分義(“**偏离**”)を表わすか通常の結果を表わすかが決定される」。しかし本稿で扱う動詞との組み合わせに関しては、これまでの用法調査の結果により、共起制限を強く発揮する語義になりえないものとみなして、本稿ではこの語義グループに属する形容詞をまとめてとりあげることはしない。判断形容詞(性質形容詞。計量形容詞は単独では褒貶に対して「原則として中立」とみなす)や感覚感情形容詞のなかの成員に重複するものとしてとりあげる。③描写形容詞は**石毓智** 1991の論文に基づいて設定した語義グループである。[7]「“**不**”“**很**”“**最**”“**有点儿**”によって修飾されない形容詞を《**定量形容词**》と名づけ、修飾される一般の形容詞を《**非定量形容词**》とする」。しかし、(1)VA型内で使われない。(2)判断形容詞・感覚感情形容詞の重畳形AA的・AABB的が、描写形容詞と同一の文法的意義特徴を有する、すなわち描写形容詞の成員の1タイプとみなされる。という2つの理由により、今回の考察対象からははずすことにする。④感覚感情形容詞について本稿でとりあげたものはVA型の中に挿入できるもの

に限ると、以下の26個である。

CG：感覚感情形容詞＝（原因格）**酸**・**模糊**・**热**・**暖和**／　（経験者格）**饱**・**馋**・**累**・**困**・**渴**・**疼**・**痛**・**暖和**・**蠢**・**呆**・**疯**・**傻**・**昏**・**糊涂**・**迷糊**・**腻**・**苦**・**急**・**清醒**・**怕**・**高兴**・**痛快**・**灰心**・**寒心**

2，2 日本語に於ける形容詞分類

日本語の形容詞の分類について、本稿では先行研究に基づき、次の3グループを認めることにする。[8]

① 属性形容詞（JZ と略称する）

② テイル形容詞（JT と略称する）

③ 感情形容詞（JK と略称する）

【表2】に、各グループの意味的事項および文法的語義的意義特徴を示す。

	意味的事項1	意味的事項2	意味的事項3	意味的事項4
JZ	属性の所有者（格）	帰属スケール	帰属の程度	表現付加価値
JT	結果の生起点（格）	仮定された変化	結果の有様	判断：評価
JK	経験者（格）	平常感覚	感覚感情程度	快不快方向

中国語形容詞との語義に関する比較対照を行うために、CP1（計量形容詞）と CP2（性質形容詞）については JZ（属性形容詞）の中から、また CG（中国語感覚感情形容詞）については JK（日本語感覚感情形容詞）の中から、当該言語形式が指示する現象素典型・現象素枠をほぼ同じくする，異なる言語体系に属する言語形式、すなわち「翻訳語彙」としての日本語形容詞を選ぶのが順当な方法といえよう。以下、本稿のなかで中国語と、それに相当する日本語の翻訳語彙が1：1の対応をしていない例のみ、列挙する。

JZ　CP1＝低い（**低**・**矮**）：ながい（ **长**・**久**）

　　CP2＝かたい（ **硬**・**老**）：詳しい（ **仔细**・**详细**）：十分だ（ **够**・**足**）：

JT　CP2＝はっきりしている（**清楚**・**明白**）：そろっている（ **齐**・**全**・**齐全**）

JK　CG＝痛い（ **疼**・**痛**）：ぼんやりしている（ **迷糊**・**糊涂**）

ここで留意すべきことは、上記の翻訳語彙は「形容詞の述語としての用法を中心にと

りあげた、辞書の語彙項目」に対する解釈を基に選んだことである。厳格に比較対照する場合には、統合型ごとの統合意義を比べたうえで、日中両国語おのおのの現象素枠がどう重なり合えるかを検討せねばならない。たとえば、日本語形容詞の場合、その語義が活用形の違い（その果たす文法機能の違い）によって変化することは、詳しく調査されている[(9)]。中国語の翻訳語彙がそれにともなって変化することも、翻訳現場ではよく実感されていることである。

３　中国語の統合型3種類と形容詞3種類の組み合わせを基準とした日中両国語の比較対照

中国語と日本語において形容詞と動詞とが構成する統合型の数は、3:1である。言語形式の指示対象としての意義領域（発話者の発話行為に関する意図までは含まないものの、個々の発話ごとに解釈される「パロールレベル」の概念である現象素に対して、意義素が表示する「ラングレベル」の社会的な指示範囲領域）について一般的な予想をたてるならば、同一の現象を表現するために多くの種類の言語形式を擁する言語ほど、個々の言語形式の意義領域は狭く限られていると考えられる。したがって、中国語の統合型3個VA型・V得A型・A地V型ひとつひとつの統合意義特徴は、日本語の統合型A＋V 型1個の統合意義特徴よりも、(1)規定数が多く、規定が細かい。(2)意義領域が狭い。と、予想される。本稿では最初に、前項で分類した中国語形容詞のうち、CP1・CP2・CG の3種類の中国語形容詞が中国語動詞と組み合わさって構成する3個の統合型が構成した統合意義について、その特徴をパターン分けする。その後、中国語の統合意義が日本語のA＋V型の中でどう表示し分けられるか、またA＋V型を用いては表示しきれない場合、どのような表現方法が用いられるかについて検討し、本稿の【課題Ⅰ：Ⅱ】に回答を出したい。本稿では紙面の都合上、まず、中国語の統合意義についての検討のみを記述することにする。

３，１　AV型・V得A型・A地V型での用法の差異に関連する中国語動詞の15分類

本稿では中国語動詞を分類するにあたって、本稿の記述目的に基づいて、「その動詞の語義的文法的意義特徴が形容詞との共起制限にどのように関わっているか」を分類基準とする。**李临定** 1988《**汉语比较变换语法**》pp155-157, では、VA 型を述語成分とする4種類の文型＜a型:N施＋VA＋N受、b型:N受＋N施＋VA、c型:N受＋被＋N施＋VA、d型:N施＋把＋N受＋VA、 e型:N施＋V＋N受＋VA＞に分けたうえで、動詞と形容詞の組み合わせを名詞との語義関係から3グループに分けている。

(1) VA 了 N 型の賓語の位置に置かれた名詞 N と使役の語義関係を結ぶ。動詞が自動詞の場合もありうるとして**[哭湿手帕]**の例をあげている。その他の用例を付け加えるならば**[说破了嘴·流干了水]**などである。この場合の賓語は、自動詞の表わす動作にとって＜道具＞＜身体部位＞＜当体＞などであり、単純な＜受け手＞ではない。

リスト＝**害苦, 翻乱, 染红, 踏痛, 招急, 凑扁, 擦干,**

(2) 動詞(VA 型の V)と語義関係を結ぶ。形容詞は一部のものに限られる。

リスト＝**喝多, 认多, 找错, 抽足, 看惯, 看清楚,**

(3) (1)類の語義関係と同じであるが、「NVA 了 N」の統合型が成立しないこと それに対して、「NVNVA 了」の統合型は成立すること。の2点で(1)と異なる。[10]ただし、このグループに共通の語義的な特徴についてはふれていない。

リスト＝**裁短, 炒少, 画小, 搭矮, 挖浅, 买贵,**

また同書 pp166-172, では、V 得 A 型を述語成分とする4種類の文型を「動詞がオープンクラスの語彙かクローズドクラスの語彙か、さらには他動詞であるか自動詞か」に基づいて、3種類の下位分類をたてている。しかし、この分類項目では形容詞については言及していない。

そこで、本稿では以上の分析を参考にし、かつこれまで筆者が VA 型・V 得 A 型 A 地 V 型の用例を検討してきたなかで見出した「形容詞との統合に影響を与える動詞の格の区別」として、次の種類をとりあげることにする。[11]

① 動作主(有意思)

② 経験者(有意思・具体的動作や行為は行わない)

③ 当体(無意思:内発的な変化を示す)

④ 対象:(そのもの自体は無変化:動作行為や精神活動が始まる前、すなわち

平相から流相を通して異相の段階にまで存在している)

具体的事物

精神的概念または思考テーマ

⑤ 受け手:(変化を生じることが動作行為の目的とされている)

具体的事物:形状変化、質量の変化または位置変化、帰属先の変化

情報:所有者の移動のようす、または情報の質量の変化

……動詞と形容詞の組み合わせをパターン化するには、「受け手」の語義の下位区分を細かくたてると作業を進めやすい。

個々の統合意義を検討する際に詳しく触れる。

⑥ 生産物:(動作行為または精神活動を通して生産され、異相で初めて存在するようになる)

具体的事物

思考内容(考えた結果生み出された異相ではじめて生み出された意味内容:平相からすでに設定されている課題や話題)とは異なる)

⑦ 場所:定着点(閉じたスペース:平面または立体)

通過点

⑧ 道具(動詞が表示する相変化内で、必要不可欠な道具に限る)

以上の手順で選択した動詞基礎語彙のうち、VA型内で形容詞と組み合わさると辞書に記述されているものを、合計15種類に分類し、【表(no)】として整理した。そのVA型内で動詞と組み合わさる形容詞の用例は①**汉语动词-结果补语搭配词典** 1987 **北京语言学院出版社**②**实用汉语形容词词典** 1990 **中国标准出版社**③**汉语常用动词搭配词典** 1984 **外语教学与研究出版社** [～补] [状～] の項目より収集したものであり、すべてインフォーマントチェックをかけてある。形容詞は、CP1・CP2・CGの定義によって分類し、表の相当する欄に記入した。

【表3】内の符号

:＜　＞[　]内は、動詞の意義素が求める格の種類

:　／は、形容詞が形容する「動詞の意義素内の格（的要素）」の区別

::（）内の説明は、動詞が2種類の語義を表わす場合の簡略な区別

:V例欄動詞のあとの＜＞[　]は、格を補填する名詞の例。

:长(T)は、（T）によって時間を表わす語義であることを示す。

【表3(1)】＜動作主＞;身体の動き、または目的を自己完結する行動

V例	睡	玩儿	走　:(出発する)	来
CP1	多·早·晚		长(T)近·快·慢·宽·(早)	早·晚
CP2	安稳·熟·足·扁	遍·野	差·对·遍·齐·熟·(巧)	迟·齐·巧
CG	迷糊·暖和·热	腻·疯·高兴／热·困·累	酸·疼·累·热	

【表3(2)】＜経験者＞＜変化の原因＞;自然発生的な精神と肉体の変化

V例	累	吓	哭＜妈妈＞	笑＜他＞
CP1				
CP2	惨·坏／白·弯	白	干·红·坏·肿	弯·破
CG	酸·瘦／胡涂·迷糊	呆·胡涂·昏·怕·软·傻	累	疼／傻·糊涂

【表3(3)】＜動作主＞＜スペース＞:定着点

V例	坐＜椅子上＞	站＜柜台＞:(止まる)
CP1	矮·长(T)高·远·	远
CP2	安稳·端正·满·久·空／扁·瘪·坏·湿·歪·脏·皱·圆	整齐·够·久·稳·直·满
CG	累·困·疼·麻	酸·累

【表3(4)】<動作主><受け手>;動作主による具体的事物の獲得

V例	穿	买
CP1	多·少	多·少·大·小／早·晚·遍
CP2	差·久·整齐·够·漂亮／旧·烂·破·破坏·脏·皱	够·光·瘦·便宜·齐·全·齐全·足／坏·重
CG	暖和·腻	
V例	吃	
CP1	多·少·快·慢·早·晚	
CP2	饱·馋·遍·急·穷·足／干净·光·咸·胖	
CG	腻·痛快·／坏·渴·傻	

【表3(5)】<動作主>[スペース]<受け手>;定着点への付着または移動

V例	挂［墙上］	摆［桌子上］
CP1	矮·高·低·多	
CP2	歪·斜·满·偏／脏·旧	久·斜·齐·端正·满·密·匀称·整齐／对·合适
CG		
V例	放［桌子上］	放(放置、または投入する)
CP1	长(T)·多·少	多·少·快·早·晚
CP2	挤·乱·满·平·平稳	臭·干·坏·旧·凉·馊·硬
CG		
V例	贴［墙上］	装［行李］	(家)搬［平安里］
CP1	多·高		远
CP2	歪·紧·满	差／乱	空／乱
CG			

【表3(6)】<動作主><具体的事物の表面>;定着点の付着物の離脱、剥奪

V例	擦	磨
CP1	薄	薄·快
CP2	白·黑·亮·破·干净·湿·脏	光·白·尖·滑·坏·偏·平·秃·透
CG	腻	疼／蠢
V例	洗　(洗澡)	
CP1		
CP2	够·清·坏·白·抽·干净·／湿	
CG	累·模胡／(高兴)	

【表3(7)】<動作主><受け手>;形状の変化

V例	切		裁
CP1	多·大·小·长·短·厚·薄·粗·细		大·小·长·短·厚·薄·宽·窄
CP2			直·斜·坏
CG	酸／蠢		
V例	剪　(剪头发)	放	磨
CP1	(薄)·长·短	长·大·小·多·少	粗·细
CP2	／破	模胡	烂·圆
CG	苦		

【表3－(8)】<動作主><受け手>;性質または機能の変化

V例	熬	煮	炒
CP1	多·早	多	多·少
CP2	稠·稀·烂·熟·干	破·熟·老·糟	糊·烂·老·嫩·碎·熟
CG		苦	

【表3(9)】<動作主>[道具]<受け手>;道具による形状や機能の変化

V例	浇[水]	捆[绳子]	盖[盖儿]　　:(印鑑を押す)
CP1	多·少	大	多·厚·轻
CP2	透·惨·湿·坏	紧·结实·满	满·紧·严·严实／黑(清楚·模糊·端正)
CG			暖和
V例	捂[手绢儿]		
CP1			
CP2	烂·白·严实		
CG	馊·臭		

【表3(10)】<動作主><生産物>

V例	织	挖	盖
CP1	大·小·长·短·宽·厚·薄	宽·窄·深·浅	矮·小
CP2	肥·硬·软	直·空	宽敞
CG	酸		
V例	写		
CP1	大·小·快·慢·长		
CP2	扁·草·对·端正·清楚·歪·匀称·密·稀／坏·紧凑·简单·明白·熟·详细·通顺		
CG	腻·酸·疼／蠢		

【表3(11)】<動作主><精神対象>;対象に関する情報の獲得または授与

V例	问	了解	记	知道
CP1				
CP2	遍／明白·清楚	明白·清楚	差·串	详细
CG				

【表3(11)】(続)＜動作主＞＜精神対象＞;対象に関する情報の獲得または授与

V例	说
CP1	快·慢·晚·远
CP2	错·对·差·穿·串·活·厉害·仔细·重／明·明白·拧·清·清楚·完全·全·详细·具体／崩·巧／干·渴·破
CG	困／痛快·糊涂·寒心·灰心·

【表3(12)】＜動作主＞＜精神対象＞;五感を通して情報を獲得する

V例	看	听(＋看の補充例)
CP1		
CP2	透·腻·清·清楚·明白·仔细·准／坏	+准确·完全·详细
CG	腻·酸·累·困／糊涂·傻·厌烦	+高兴·絮烦

【表3(13)】＜経験者＞＜テーマについての思考または生産された思考内容＞

V例	想	看	分
CP1		远	多·少
CP2	坏·复杂·简单·具体·清楚·周到	简单	直·清楚·公平／光·平均·匀均
CG	疯·苦·呆		

【表3(14)】＜当体(生物または無生物)＞;変化の過程

V例	冻	生	长
CP1		多	高·大
CP2	惨·坏·红·肿·烂		歪·肥·烂·胖·满·丰满·壮实
CG			
V例	下＜雨＞	流＜水＞	
CP1	大·小		
CP2	紧·湿	干·光·满／旺	
CG			

【表3(15)】<動作主>[当体]<具体的対象>;当体と事物との衝突

V例	吹[风]	烧[火]
CP1		多·快
CP2	干·乱·皱·净／遍·坏·熟	旺·猛·厉害·红·黑·糊
CG	腻·累·痛／清醒	

3．2　日本語内の翻訳語彙を通して現れるVA型・V得A型・A地V型の統合意義特徴の差異

前項3．1では、中国語の体系の中で、動詞と形容詞とがVA型内でどのように組み合わさるかを整理した。本項では、本稿の課題を解明するために、中国語のVA型・V得A型・A地V型の用法の差異が日本語での翻訳語彙の使われ方とどう対応しているかを検討しつつ、その統合型の文法的機能の一面を考察することにする。

日本語形容詞の連用用法(A＋V型)について、『計算機用日本語基本形容詞形容詞辞書 IPAL』解説篇(注9参照)では、まず4種類に大別する。―副詞相当のもの[はやく走る、おそろしく複雑だ]，文の述語として働くもの[美しく見える、甘く感じる]，「なる」「する」と結合したもの，ゆるい意味的関係をもつもの[水分が多く、腐りやすい]―その中で副詞相当の用法として、動詞を直接的に修飾するものを一つの記述項目にたてて、被修飾語となる動詞と形容詞との意味的関係のありかたを、次の4種類におおまかにわけている。

(1) 結果result　　[赤く染める・厚く塗る・つめたく冷えきっている]
(2) 様態manner　　[つめたく突き放す・いさましく戦う・いそがしく働く]
(3) 程度、量degree　[ひどく疲れる・いっぱい入れる]
(4) 心的態度attitude　[ありがたく頂く・]

本稿では上記4種類の語義呼応のパターンを踏襲したうえで、中国語との比較をすすめていくことにする。大方の原則として次の予想がたてられる。(1)の結果は、形状や性質機能に変化を受ける<受け手>や、動作行為を通じてはじめて存在する<生産物>に関わる叙述に相当する。(2)の様態は、動作行為のやり方の詳述に相当する。(3)

の程度、量については、日本語でも中国語でも動詞と結びつく形容詞が極めて限られる。「**够**·**满**」など。(4)の心的態度は、日中両国語とも感覚感情形容詞が用いられる。

なお、中国語の用例の出所は次の略号で示す。**汉语动词·结果补语搭配词典**：HJ, **实用汉语形容词词典**：SX, **汉语常用动词搭配词典**：CD, インフォーマント調査による収集例:IF, ネットからの老舎戯曲集用例:NL。

§３，２－１：「社会的関心度の高さ」が統合を促進したＶＡ型

★【表３（３）】「座る」と「立つ」は、日常会話における使用頻度の高さからみると、日中両国語ともに「**坐着**座っている」と「**站着**立っている」という「動作の結果の持続」を表わす形が基本的用法といえる。行為を表わすには、「**坐下**」「**站起来**」という過程を詳述する方向補語をつけてはじめて、「座りなさい」「立ちなさい」という伝達意味や、「座る」「立ち上がる」という動作を表わす。

そこで、判断形容詞CP1**高低矮**とのVA型内での組み合わせは、基本義でもある「座っている」持続状態の、その「姿態」(動作主の一時的形態)を表現することになる。

①: **前排的人坐矮一点儿好吗?我们后排的人看不见。**　(HJ)

矮は本来物体の背丈(形状)という恒常的な属性を判断するものであり、その属性は座るという動作そのものによって影響を受けることはありえず、動作の目的とする変化にもなりえないはずである。すなわち、動詞**坐**の意義素が示す動作のなかでは動作主形状の変化(背丈が高くなったり低くなったりすること)との因果関係が見出せない。しかし、劇場でのシートへの座り方は、快適な観劇ができるかどうかに深く関わるために、「社会的関心度が非常に高い」動作のあり方である。しかも、「VA＋**一点儿**」の統合意義特徴は、「Aの状態を生じるべく行為せよ」という「聞き手を対象とする使役(命令)」の伝達特徴を含むのは周知のことである。したがって、これらの文脈的意味からの補充によって「動作と形状との関連性」が強化され、「座高の低いほうが好まれる地点で、座高が低くなるように座る」現象素枠が出来上がったと考えられる。このような、統合型の統合を促進させる文脈的特徴を、本項では「統合必要条件」と名づける。日本語のA＋V型でも、単に形容詞連用形「低く座りなさい」だけでは舌足らずであり、「動作行為目標」を詳述するための補足形式「なるように」という方向性に対する目的意識を加えてはじめて、十全の翻訳語彙になると言えよう。

V得A型内では、**坐得矮一点儿**は　通常の比較表現であり、同一人物の四世の変化または複数の人物の座り方を比較する。特別に依頼表現を文脈で補充（例えば　**请你**）しない限り、命令表現にはなりえない。なお、A地V型内では**坐**と**矮**　が組み合わさった用例は管見の限りは見当たらなかった。

§３，２－２：「動作・行為にふさわしい目的意識」を詳述するA地V型

★**矮**、の反義語である**高**のほうは「事物の恒常的形状[ex都庁ビルは高い]」と、「状況内での相対的位置関係（定着点または移動過程）[ex飛行機が高く飛ぶ]」の双方が表わせる。（**低**は、形状をあらわす**矮**との相互分布により、形状よりは相対的位置関係を基本義として表わす。）

②：**前边的人坐得太高了，把后边人的视线都挡住了。**(CD)

③：**同学门坐在阶段上看戏，其中小李坐得最高。**(IF)

④：**一只小猴高高地(??很高地)坐在一个树枝上。**(IF)

高は**坐**と組み合わさる場合、単独のVA型内では「座っている姿態（高すぎる、という過分義）」、V得A型内では「座っている姿態」または「絶対的高度」、A地V型内では「相対的位置関係」を表わす。

ここで注目すべきは、VA型とA地V型とで表現できる**高**の語義が異なっていることである。④（A地V型）の翻訳語彙としては[小猿が一匹、高い高い木の枝に座っている]が自然であろうし、また中国語としても、[**一只小猴坐在一个很高的树枝上**]という表現のほうが中立的な表現であると報告されている。小猿の座っている高度を「枝の定着点の高さ（連体修飾統合型）」として表現せずに、状語としてA地V型内で④のように表現するならば、「小猿が上へ登ろう登ろうという意思を持っていた」という意味が統合意義の中に含まれるという。特に「很A地」ではなく、「AA地」型が使われることによって、前記の「動作主に動作のやり方（流相）に対する目的意識（より高くより高く）があった、という動作完了後の状況（枝に座っている）が成立するにあたっての背景詳述」が統合意義の中に含意されると考えられる。(12)

【表3】のなかで、判断形容詞（CP1）**高**と組み合わさる動詞は、ほかに【表3（5）】の**挂**・がある。**坐**　との語義上の差異は＜動作主＞＜スペース＞の他に＜受け手＞すなわち動作によってポジションを移動させられる物体があることである。かつまた、動作過

程に時間的経過（流相）が含まれていることである。そのゆえに、**坐**のような（1）動作主自身姿態のみの変化を示し、（2）ポジションの移動する物体も存在しない、動作動詞を用いた場合には[**很高地坐在树枝上**]が不自然な表現と捉えられたのに対して、[**把画儿很高地挂在墙上**絵を壁に高く掛けてある]は統合文脈条件を全く必要とせずに成立する中立的な表現として意識される。また[（**正在**）**把画儿高高地挂在墙上**]は、動作主が動作のやり方に対して明確な目的意識をもっていることを詳述する表現であって、④のように「状況の背景」として動作主の目的意識を含意している表現ではない。すなわち動詞が**挂**・である場合に、A 地 V 型内で**坐**とは組み合わさりにくかった[**很高地**]が使用できるのは、掛けるという動作過程の中にポジション移動を移動すべき物体が存在しているためと考えられる。そこで、A地V型の文法的意義特徴の一つとして、「動作主がその動作を通常の条件下で行なうにあたって、状語が表わす状態を達成しようとする目的意識を有していること」があげられよう。

§３，２－３：「変化の一回過程内の格（的要素）」を判断評価するVA型

VA型では、動詞と形容詞の原型しか組み合わせることができない。この文法的事実は、以下のごとき語義的制限をVA型に課していると予想できる。そして、その語義的制限をVA型の統合意義特徴として記述する必要があろう。

⑤　**墙上那幅画挂高了，应该跟这幅看齐。**　（HJ）

⑥　**你把那幅画挂高了，应该挂低一些**　（IF）

★　⑤は＜受け手＞を主語とし、⑥は＜動作主＞を主語として＜受け手＞を「把」字の賓語として導入している。ともに、＜受け手:**画**＞のポジションが「適正基準」より高すぎることを表わす文脈に使われている。また、⑥の2番目の述語[**挂低一点儿**]、は、動作を始める時点（平相）での受け手の具体的なポジションを判断基準とした表現である。このように、VA型では、動作の一回過程内の変化にともない、「平相・流相・異相で一定方向のベクトル変化（判断形容詞の程度差）を示した事物」が、優先的に判断対象格としてとりあげられる 。（ **坐高了** でも同様のことがあてはまる：背筋をよりピンとさせて座った）

⑦　**（要是你）再垫高了桌子，高矮就合适了。**　（HJ）

⑧　**我（又）织大了／织小了这件毛衣。**　（IF）

★　＜動作主:S＞と＜受け手:N＞の双方を単文の中で取り上げる文型としては、「把」字による＜受け手＞の導入以外に、SVA了N型とSVNVA了型がある。SVA了N型のNは特定の事物でなければならず、その事物が「適正基準を外れて、悪い結果や不都合(以下、「迷惑義」と呼ぶ)が生じる」という統合意義特徴を有することがインフォーマント調査で明らかになった。絵を掛ける高さが迷惑を生じるような場面は、まず想定できないためか、＜ **你**＞＜ **画**＞＜ **挂高**＞の組み合わせがSVA了N型で用いられるとした内省報告は一つもなかった。一方、SVNVA了型には「一回きりの動作行為の結果に偏った傾向(過分義)がある」という統合意義特徴がある。もし、動作主のある動作行為にみられる癖や習慣を表現するためには、通常はSVNV得A型を用いる。

また、SVA了Nについてインフォーマント調査を行った際に、40歳代・30歳代・20歳代(ともに北京育ち:大学教育を受けている)の語感が極めて不統一であることがわかった。年代がさがるにつれ、SVA了N型独特の統合意義特徴について、統合必要条件がゆるくなっていたが、もっとも厳しい制限を課していたインフォーマントも使用を認めたのが、⑦のような条件節での用法である。ただし、その場合も[**垫高**] は認めても [**垫低**] は使用しないとの報告であった。他の用例と対照してみると、動作が継続された場合の「量変化を生じさせるベクトル方向」と一致している必要があることが判明した。NVA了は、動作のベクトル方向と受け手の量変化の方向とが一致しなくてもよい(例えば; **桌子垫低了**。(特定の)机の足台の入れ方が低かった)ので、この点、SVA了N型とは統合意義特徴をことにしていることがわかる。

動作主が動作を通して生産物を生み出し、ベクトル方向を2方向にコントロールできる場合は、SVA了N型の動詞と形容詞は⑧のように2種類の組み合わせが可能になる。(⑧の翻訳語彙:私はまたしてもセーター(ここにある)の大きさを大きめに／小さめに編んでしまった。)

⑨ **孩子们把椅子坐坏了。** (IF)

動詞の格を補填することのできない物体であっても(例えば「 **坐椅子上**」は＜スペース:定着点＞という格を補填するが、[**坐椅子**]とは言わない)、平相から異相まで通して存在する物体(以下「格的要素」と呼ぶ)が動作にともなう自然な変化を生じる場合、「把」字の賓語として導入し、その変化を⑨の用例のように表現することができる。この変化は意図的なものではありえないため、形容詞は**坏**・**光**・など少数のものに限られる。

このように、VA型の用法はVA型を使用する視点が、動詞の表示する変化過程の中に絞り込まれていることを証拠立てるものといえよう。すなわちVA型の統合意義特徴は、「動作行為に必須の要素として関わる事物が、相ごとに変化するあり方に着目する」点にある。

§３，２－４：「同一状況内での一連の出来事に関する諸要因」を判断描写するV得A型：「同一状況内での出来事全体」を「動作主よりの視点にたって」判断描写するA地V型

V得A型はVA型やA地V型と異なり、「V 得」形式の後ろに置かれる形容詞が述語としての機能を独立してはたすことができる。(1)通常の形容詞フレーズをすべて(例えば、比較表現・強調の副詞による修飾など)「V得」形式に後置することができる。例えば「V得」形式のあとに「A＋否定副詞**不**＋A」の反復疑問文形式を続けることにより、形容詞を疑問の焦点にすることができる。(2)「V 得」形式の後ろに置かれる形容詞は、「V得」形式内の動詞 V の格を担っている＜動作主＞＜受け手＞＜生産物＞のほか、「V得」形式[13]そのものが表示する「(時空を捨象した)事柄」、さらにその事柄を誘因として影響を受けた＜経験者＞について、判断・評価・描写できる。逆に言えば、これらを表わす名詞や名詞フレーズ、また「V 得」形式そのものは「V 得」形式の後ろに置かれている形容詞の格(判断対象格、評価対象格、描写対象格、感覚感情原因格、感覚感情主体格)を担う格補填語である。S／NV得A型は、形容詞が述語としての文法機能を発揮できることによって、他のNVA了型・SA地V型と次のような統合意義特徴の差異を示している。

★　以下の3例は、VA 型(**※生聡明**・**※落実差**・**洗光**　(意味が変化する:洗い落とす)) でも、A 地 V 型でも用いられない動詞と形容詞の組み合わせである。

⑩　**他生得聡明，又能刻苦。**　(SX)

⑪　**中央的知识分子政策，你们落实得也太差了。**　(SX)

⑫　**脸洗得光光的。**　(SX)

3例に共通の構造上の特徴は、「V 得」を省略しても文意に大差が生じないことである。その原因はどこに求められるべきであろうか？⑩は、生まれつきの人間の属性を判断している。⑪は、実施のしかたがまずかったと判定を下している。⑫は、こしこし洗っ

てツルツルになった様子を描写している。すなわち、⑩は、「**他很聡明**」としても文意に大差が生じない。⑪も、「**知识分子政策太差了**」としてもよく、⑫も、「**脸光光的**」で十分に伝達すべき情報は表現できる。つまり、この3例では、「V 得」が「ある状態を生じる原因」としての新しい情報、または個別に必要とされる情報を提供していない。言い換えるならば、V得A型は、動作Vと結果Aとの間で「Aという性質・状態の誘因としての動作行為」として動作Vを認める必要がないほどに他の誘因が考えられない場合にも用いられる統合型であると考えられる。また、これほどに「あたりまえすぎる、必須の原因」としての動作行為は、V得A型でのみ表現できるといえる。

★　次にV得A型・A地V型では組み合わさっても、VA型では組み合わさらない動詞と形容詞のペアについて考察する。

⑬ **真懂事，这话说得多聡明。**（SX）　：**她聡明地说这句话。**

⑭ **他死得好惨啊！**（SX）　：**他很惨地死了。**

⑮ **我也知道得不详细。**（SX）　：**我也很详细地知道。**

⑬は、形容詞が動作のやり方或いは様態をV得A型で描写している。A地V型では、彼女がそのことを話したという出来事について評価し、翻訳語彙では「賢明にもそのことを話した」となる。⑭は、V得A型では、変化の有様つまり死に様が痛ましく悲惨であると嘆いている。A地V型では、死んでしまったという出来事が「痛ましいことながら」と慨嘆されている。⑮は、V（**知道**）が内容的には知覚動詞、アスペクトの面からは状態動詞であり、A（**详细**）は「知識となっている情報」の性質を述べている。V得A型では動作主のもっている情報が詳し（くない）ことを表現し、A地V型では動作主を情報の持ち主という観点から描写していて、文中の語義の焦点が異なっている。この3例を通してV得A型とA地V型を比較するならば、前者が「動作行為が事実となる、そのなり方」を形容詞で描写したり判断をくだしたりしているのに対し、後者は「その動作全体を外から眺める視点」でその出来事（同一の叙述地点と叙述時点とみなされる、同一の状況で生じる事実）への評価や描写がなされている。そして、いずれもVとAとの間に「個別の因果関係」が存在しないゆえにVA型での統合ができないと考えられる。

★　感情形容詞が動作行為と組み合わせて叙述される場合、（1）その動作行為が感情（例えば　**高兴**）を生じさせる契機または手段とみなされるとき（例えば　**听・谈**）には、VA型・V得A型・A地V型すべてを用いて表現できる。それに対して、（2）その動作行

為がある感情（例えば　**高兴**）によって誘発された、またはその感情の表現手段とみなされるとき（例えば　**笑**）には、V得A型・A地V型が用いられる。（1）の用例として⑯、（2）の用例として⑰をあげる。

⑯　**他听得高兴了，就跟大家一块儿笑笑。**（SX）

⑰　**领导同时点点头，高兴地笑了。**（SX）

⑯の翻訳語彙としては、「彼は聞いてうれしくなった（VA型）」「彼は聞くとうれしくなった（V得A型）」「彼はうれしそうに聞いていた（A地V型）」があげられる。⑰の翻訳語彙としては、「うれしそうに笑った（V得A型）」「うれしがって笑った（A地V型）」が適当であろう。

以上の用例分析を通して、V得A型・A地V型の統合意義特徴について次のような差異が認められる。V得A型は、「同一の地点・同一の時点（すなわち同一の状況内）で生じたと認められる一連の出来事」の中に存在する「出来事の諸要因（動作主・経験者・事柄としての動作行為・動作行為に関わる格的要素など）」をクローズアップして、個々に判断評価描写する。A地V型は、「同一状況内での出来事全体」を状況外からの視点にたって判断評価描写する。

§３，２－５：「とりかかりの時」を計測・計量するVA型・V得A型・A（地）V型

前項で「同一状況内」という、単文複文を分析するための意味的概念を導入した。その定義は次の2項からなる。

（1）話し手によって、時点と地点が同一であると認められている。

（2）一連の出来事の背景となる。

本稿では、時点に関する形容詞**早／晚**と動詞の組み合わせを分析することにより、あらためてこの状況という意味論上の概念が文脈や統合意義の分析に有効であることを示しておきたい。

★　本稿では紙幅の都合上、基本的な時間量の観念（**十分钟／一会儿**）と、ベクトル量（**一点儿**）の観念の差異が、どのように統合に影響するかを考察する。

A：**请你明天早十分钟／早一会儿／早一点儿来，好吗？**

B：**请你明天早来十分钟／早来一会儿／早来一点儿，好吗？**

Ｃ：请你明天来早 ※早十分钟／ ※早一会儿／早一点儿，好吗？

Ｄ１：请你明天来得　※早十分钟／　※早一会儿／早一点儿，好吗？

この4例は、「**要是～～～，就不会遭到交通事故了。**」という(反実)仮定のなかでも同様の共起制限を示す。

A・BとC・D1との共起制限の違い(※の有無)は何が原因で生じるのであろうか。用例を分析していくと、判断形容詞**早／晚**の文法的意義特徴、およびA(＝A～V)・B(＝AV～)C(＝VA～)・D(＝V得A～)の統合意義特徴の差異が次のように共起制限を規定していることが認められる。

(1)　「比較した結果を具体的数値によって表示できる」という文法的意義特徴により、中国語形容詞には計量形容詞というグループが認められる。形容詞を計量形容詞として用いるには、状語の位置(すなわち述語動詞の前)に置かねばならない。言い換えるならば、この用法は計量形容詞にとって、示差的文法意義特徴のひとつとみなせる。

(2)　叙述しようとする出来事の時点を変化させるということは、叙述時点も異なる時点へ変化する(地点もそれに伴い何らかの変化を必ず示す)ことであり、言語表現の背景となる状況を変化させることである。状況は、原則として状語の位置で叙述される。＜→AB＞

(3)　**一点儿**は、ベクトル量の変化を表示するものであり、同一の状況内での変化を叙述するために用いられる。したがって、判断形容詞(計量形容詞・性質形容詞ともに)に後置した場合、状語以外の位置で用いることも可能である。＜→ABCD＞

(4)　形容詞のベクトル量変化を表わす「形容詞＋**一点儿**」　の統合意義には(1)比較の結果の平叙、(2)ベクトル量を変化させようとする意思、の2通りの文脈的意義が加わる。状語の位置では(2)の意義が優先される＜→AB＞。補語の位置では(1)の意義が優先される。＜→CD＞。ただし、他の統合型を用いて、比較や命令の意義が文脈的意義として加えられた場合には、そちらの意義が優先される。

4 おわりに

動詞と形容詞が組み合わさって構成する文法構造を、語義的・文法的に分析していくためには、今後、以下の4点から考察を順序だてて進めていきたい。

(1) その動詞の意義素内にどのような格が含まれているか。

(2) その形容詞はどのタイプの形容詞に属しているか。

(3) 同一の動詞と形容詞の組み合わせが、VA型・V得A型・A地V型のなかで、どのような統合意義の違いを生じるか。

(4) 日本語での翻訳語彙としては、どの文型が最もふさわしいか。

---

(1) Mann, W. Matheson, C. and Thompson, S. 1982 :*Rhetorical Structures* (R構造) *Report.* MS.
談話の最小の単位は命題であり、中核的命題が付加的な命題を意味的に結びつけてR構造を構成するとする。
Fox. B. A. 1987: Discourse Structure and Anaphora :*Written an Conversational English.* Cambridge Studies in Linguistics48
談話を線的連続ではなく、相互に関連をもった節が階層的に編成しているグループとして捉える。照応形として代名詞が使われるか語彙的名詞句が使われるかは、談話内に介在している節の数によって決定されるのではなく、「まとまりと境界」という要素も深く関わる。

(2) 属性的叙述および事象的叙述についての参考文献
益岡渉　『命題の文法』くろしお出版
意味的事項、および論理的叙述、事実的叙述についての参考文献
大滝幸子 1975 「中国語の形容詞の意味分析」『中国語学』222号

(3) 国広哲弥 1994 「認知的多義論—現象素の提唱」『言語研究』106 日本言語学会
大滝幸子 1999 「中国語動詞と形容詞"清楚"とが構成する統合型の文法的意義特徴」(Ⅰ)p6

(4) 大滝幸子 1992 「「人間を形容する形容詞の意義素記述」における日中対照研究」『明海大学外国語学部論集』第5集 pp65-80

(5) **陆俭明** 1989 **说量度形容词《语言教学与研究》第三期** pp46-58
大滝幸子 1996「時間と距離に関する中国語形容詞の意味分析」『金沢大学中国語学中国文学教室紀要第1輯』pp1-36

(6) **陆俭明** 1990 **“VA了” 述补结构语意分析 《汉语学习》第一期** pp1-6
1997 **“形容词作结果补语情况考察”《汉语学习》第一期，第四期**
崔永华 1982 **” 与褒贬义形容词相关的句法和词义问题”《语言学论从》第九辑**, pp96-d121：崔1982 では、8種類の文法構造の中で、どのような統合が可能かについて検討している。①満足を表わす構造3種類：**还(算)**·**还比较**·**蛮(满)**②不満足を表わす構造4種類：**有点儿**·**有点儿~了**·**不够**·**非常不**，**十分不**，**特别不**③満足不満足に関して中立な構造1種類：~**了点儿(了)**
(7) **石毓智** 1991 **“现代汉语的肯定性形容词”《中国语文》第三期** pp167-174
张国宪 1995 **“现代汉语的动态形容词“《中国语文》第三期** pp221-229
(8) 国語国立研究所1972『形容詞の意味用法の記述的研究』秀英出版
「はじめに　2. 目的・方法と経過・反省」において、感情形容詞と属性形　容詞の2大別を論じている。本稿では、中間形態として「ある変化があったものと仮定されたうえでの、結果の状態」を「～ている」という語尾で表わす形容詞のグループを認めることにする。その一群には（そびえている・すぐれている・ずばぬけている・ありふれている：才気走っている・にやけている・ばかげている）など、金田一春彦が指摘した第4種の動詞が含まれる。
金田一春彦 1950 「国語動詞の一分類」『言語研究』15
また瞬間動詞に「～ている」を付加したテイル形容詞として（曲がっている・くっついている）、さらに状態動詞に「～ている」を付加したものとして（違っている・当たっている）なども含めることにする。
(9)　情報処理振興事業協会技術センター『計算機用日本語基本形容詞形容詞辞書IPAL』解説篇 1990
(10) NVA了N型の統合意義特徴の差異については、
拙稿 1996「判断形容詞と動詞とが組合わさった統合型の統合意義特徴の分析」東洋文化研究所紀要第131冊pp145-148：
で以下のような分析を加えた。その後の考察の進展を踏まえ、一部補充・訂正を加えて転記する。
【VA了N型の統合意義特徴Ⅰ】
動詞の賓語となる名詞の意義素の中に、その動作動詞が表わす動作を受ける（その動作によって生産される・変形や変質を受ける）という弁別的意義特徴が含まれていなければならない。共起制限を律する優先権が述語よりも賓語の語義に与えられている。
【VA了N型の統合意義特徴Ⅱ】
形容詞（ほとんどが計量形容詞であり、一部性質形容詞が含まれる）につ

いて設定される判断基準が、「名詞の表わす具体的物体に対して、一般的にイメージされている典型基準」と一致する。

【VA了N型の統合意義特徴Ⅲ】

Nに対して指示詞による限定修飾が加えられている統合の場合:
動作行為の受け手となった物体、または動作行為の結果生じた生産物にとって、統合必要条件として目標とする「形状または性質上の適正基準」が設定されている（文脈に現れる場合も、状況の背景として存在している場合もある）。したがって、統合意義には「動作行為が失敗して、適正基準から逸脱した」結果としての過分義が含意される。

(11) 本稿で取り上げる中国語動詞の格は、主語の位置と賓語の位置に置かれる名詞の語義が動詞の語義とどのような意味関係にあるかをもとにして、設定されている。なお、精神対象または行為対象が人間に限られる場合、特にこれを「相手」として区別する。

動作主、経験者、（この2つの格は単文の主語の位置に置かれる。以下は原則として賓語の位置に置かれる。）
当体 **下雨**、行為対象・精神対象 **认识他**、行為受け手 **织毛衣** 生産物・思考内容 **想办法**、行為原因 **躲雨** ・精神原因 **后悔辞职** 、場所【（出発点 **出门**）（通過点 **走马路**）（終点 **去北京**）（定着点 **在北京**）】スペース **装箱子** 道具 **捆绳子・吃大碗**、　行為目的 **跑买卖**・行為類別 **踢中锋**・**演正旦**・**寄挂号**　使役対象 **端正学生**、同定基準 **是学生**・ **象爸爸**

(12) 状語の形式としての「很A地」と「AA地」についての参考文献

原由紀子 1989「程度副詞"很"と状語の関係について」姫路独協大学外国語学部紀要第2号pp173-190
大滝幸子 1996「状語中心語統合型を統合意義特徴—形容詞と動詞の組み合わせを対象として—」東洋文化研究所紀要第 129 冊 pp1-62

(13)「V得」形式の語義的意義特徴についての参考文献

杉浦博文 1992「補語を導く"V得"の文法機能」中国語No395　内山書店
大滝幸子 1995「述語補語統合型の統合意義特徴—動詞と形容詞との組み合わせを対象として—」東洋文化研究所紀要第 12 冊 pp1-62